

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290500083		
法人名	合同会社グローリー		
事業所名	グループホームみつばちの家 西館		
所在地	長崎県大村市竹松本町685番地8		
自己評価作成日	平成22年8月20日	評価結果市町村受理日	平成22年12月8日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成22年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、交通の便の良い静かな住宅街の中で、大変恵まれた環境の中に立地しています。ホームの敷地入口には掲示板を設置し、当ホームの取り組みを地域の方々へ発信しています。また、スタッフ間で生活管理委員会・地域活動委員会を立ち上げ、地域活動としては、入居者が作った手作りの物 保育園の卒園生への花籠などの作成 畑でできた野菜をほんの少しだが地域へ配ったり、庭作りにベンチを設置しています。将来的には、近所の方々をお招き出来たらと思っています。生活管理活動としては、入居者の心身の健康、QOLの追求を目指しています。また、音楽を楽しむ場も多くあり、ホーム長の弾き語り(ギター)を先頭に、音楽を通して、入居者の生きてきた生活を振り返り、それぞれの想いに共感しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当グループホームは、閑静な住宅街の中で地域の中に自然ととけこんでおり、周りには医療機関、その他関係機関が多くあり、社会資源に恵まれた環境の中にある。2つのユニットが隣接しているため様々な点で協力を得ることが出来る他、地域との交流や福祉の啓発の部分では関わり方や働きかけの方法をより深く検討し実行に移しており、今後の成果が期待できる。また、年間の研修計画を立て職員の育成に努め、会議の中や個人面談の中で管理者等と職員との意見や要望の抽出が行いやすい体制となっている。職員はユニットごとで生活管理委員会と地域活動委員会に入り毎年目標を掲げている事も良い点である。日々の介護サービス等の記録は緻密に記録されており、ケアプランとの連動が成り立つように独自のフォームを作成している。散歩は自由であり車椅子の利用者も含め法人所有の車両を使い外出支援も行っている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有しながら、入居者の方々が良い環境の中で過ごせるよう行っている。	運営理念と2つの経営理念を掲げており、職員で意見を出し合い作成した運営理念には地域となじみの関係になる事が謳われている。また、この理念をもとに毎年東西棟別に目標を掲げ、理念と目標を現場で活かせるよう努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の中の保育園や商店などに雑巾や卒園児への手作りの花かごなどをプレゼントの計画、実践し委員会を設けている。	地域の保育園や店との交流がある他、地域の行事への参加、地域の施設を借り敬老会などを行っている。また、敷地入口付近にある掲示板で役割や目的を明確にしてボランティアの募集を行うなど受入れに積極的である。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	掲示板を設置し、外部などへの情報の発信に努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加していただく近所の方や家族様など現況報告と共に意見をいただき、実践へ活かせるよう行っている。	会議の構成メンバーとして予定されている分は適正でおおよそ2ヶ月に1回推進会議は行われている。内容は利用者の状態や行事報告を中心に行い、意見の抽出にも努めている事が、議事録で確認できる。ただし、最近の会議では実際の参加者は少なくなっている。	再度、会議の参加者へ参加を促し、意見の抽出に努め、サービスの向上へ繋げていく事を期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議後などに話や実情を行い、又新聞発行時などは手元は届けたりとの関係作りに取り組む努力を行っている。	介護相談員の受入れがあり、認定調査の際など市町村担当者との連絡や働きかけに取り組んでいる。また、市のグループホーム協議会や保健所を通しての情報交換も行っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃より、何が拘束にあたるのか？など会話をもち玄関など自由に出入りできる環境作りに取り組んでいる。	身体拘束に対する方針を掲げ、声掛けの際にはより具体的な言葉を使うなど内部研修等で職員の意識共有をはかっている。玄関の施錠は、日中は行っていないが、家族の同意を得たうえで死角となる場所にはカメラやセンサーを付け利用者の安全を守っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行ったり、ユニット会などの話し合いの場であったりと言葉に出しそれぞれ注意を払い防止に努めている。		

グループホームみつばちの家(西館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体的には、把握していない職員も多く実践で活用されているところでもあるが、学ぶ機会は、少ない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明への時間を持ち、家族様の不安、疑問点などへの説明は十分に行い理解・納得を頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進協議会において、入居者、その家族の方々にも参加いただき、意見、要望を尋ねているが、特に意見が無い事が多いため、普段の生活の中や面会時に何気なく発せられる言葉に耳を傾けている。	利用者の家族が訪問した際や電話の中で意見の抽出を行っている。家族等より介護サービスに関する意見はありその都度、ケアプラン等に反映を検討しており、運営に関する意見も抽出に努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職員会議・ユニット会にてスタッフ主体の会議を行い、また、日常的に入居者主体の生活を、スタッフ同士が考えや意見を出し合いながら行っている。	月1回の職員会議、ユニット会などの中で利用者の状態、行事に関する意見や要望を職員から抽出し反映するように努めている。職員の年間研修計画を立て個別面談を行うなど、代表者や管理者と職員の意思疎通や職員育成に努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれの日常的な就労状況や考えを把握し、その職員がやる気を持って仕事に取り組めるように、給料UPを含めた役割りや係り担って頂いている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度より外部・内部研修推進の為に担当者を決め、職員一人一人に応じた研修が受けられるようように計画を立て実行している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内GH協議会で行われる相互評価・職員交換研修・親睦会等に参加し、また、独自の地域社会資源との交流を図り、ネットワークを築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者と日頃から、コミュニケーションの中で要望等を聞き出し、職員間でのミーティング情報の共有を行い、ケアに結びつけている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様要望等あるときは、業務日誌(申し送り)に書いたり、ユニット会で話し合い安心できるような関係作りに努めている。(誰でも知っておく為)		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様の話を傾聴し、必要としている事を考え、支援提供に繋げている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る範囲での家事を共に行い、時には入居者様の知恵を貰いと、関係作りに努めている。が、馴れ合い等にて言葉遣いなど疎かになる事もある。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際には、最近の状況、身体の変化等を、伝え状況交換できるよう努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る範囲での支援に努めているが、馴染みの場所が、遠方だったり希望が叶えられなかった場合もあるが、出来る限り途切れないよう支援している。	利用者の家族や友人の訪問があり、家族の協力のもと自宅での外泊や馴染みの美容室、墓参りなどに行く事が出来るように職員は支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活での席の配慮、レクリエーション等での皆さんが参加できる様な環境作りの支援を行う		

グループホームみつばちの家(西館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療系への移動にての終了が多い為その後は、お見舞いなどにて家族様との関係保てるよう努めているが相談、支援は、難しい事もある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの思いなど希望を聞き、意向にそいながら検討行い又、困難な場合は、本人の意向を探りながら検討していくよう努めている。	日々の利用者との会話の中や会話が困難な場合は利用者の表情の変化や反応から利用者の希望や意向を探り検討している。しかし、利用者の生活歴や趣味等については、基となるアセスメント表の中における記録が少ない。	利用者本人の生活歴や趣味等から希望や意向を抽出及び記録し、職員間での共有が出来るように努める事を期待する。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や、家族様からの情報の中で生活歴、環境、馴染みの暮らし、利用経過の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録等 申し送り スタッフ会議などによって現状把握を行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に行い、家族様の意見、本人からの今の環境への意見(要望)スタッフとの会議での内容などをもとに介護計画を作成している。	介護計画は原則3カ月に1回見直し、定期的に7項目のケアチェックとモニタリングを行い必要に応じた見直しも行われている。短期、長期の目標を立て日々の記録であるケア記録の中で実施されている事が一目でわかるようになっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌、ケア記録、の記入によって職員間の情報を把握し、又、共有ノート(眩き、こんな時どうしてます?)などでの意見、工夫を実践や介護計画の見直しへ役立てている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況変化に対しては、その時々合った対応(柔軟な考え)を行いながらのサービスを行っている。		

グループホームみつばちの家(西館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域資源の利用は、中々旨く利用に至っていない現状である。が本人のもっている力を発揮出来るよう支援を行っている。</p>		
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>施設内での対応、家族の同行など話し合いながら運び、主治医との連絡、相談行える環境を作っている</p>	<p>利用者と家族の同意のもとかかりつけ医を決定し、往診、通院送迎の支援を行っている。立地的に社会資源に恵まれており、その他歯科や皮膚科など他の診療科目に関しても連携医療機関や関係機関との連携がとりやすい環境にある。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週1回定期的に訪問看護師に相談、個別の情報伝達 受診 を行う支援を行っている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>敏速な情報提供が出来るよう、定期的に基本状況などの確認(システム内)を行い、又家族の希望があれば、説明時の同席、機関との連絡に努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期については、家族の希望や思いを聞いた上で事業所の出来る範囲の説明を行うが、事前に方針を把握行うように努めている。</p>	<p>ここ1年間は、ターミナルケアの事例は生じていないが、事業所では対応指針が掲げられており重要事項説明書と一緒に説明できる準備が出来ている。また、主治医、訪問看護の支援により対応できる体制作りにも努めている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員によって差があるが、定期的訓練には至っていない状況にある。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災についての訓練は定期的に行っており近辺の方々への参加の声掛けは行っている。時々参加はある。が地震、水害に対する訓練は実践できていない。</p>	<p>消防署の立会のもと年2回、夜間想定避難訓練が実施され、自主的な訓練も年1回行っている。火災に関してはマニュアル等が備えられており、避難経路は明確でありスプリンクラーの設置もあるが地域との連携はまだ働きかけの段階で地震や水害対策については不十分である。</p>	<p>災害対策に関しては、火災のみではなく地震や水害に対する対策を立て、訓練の実施に積極的に努める事が期待される。また、地域との協力体制整備が望まれる。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務に余裕がある時は、それぞれへの人格への尊重など出来るような声掛けできている。が、忙しい時など流してしまう声掛けを行っている時もある。	職員は誘導時の声かけの際に利用者の誇りやプライバシーを損なわないように配慮している。事務室に保管されてある個人ファイルのラベルは各号室に変更し利用者名がわからないように配慮している。また、個人情報については雇用契約書等に謳い各職員に説明している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中でも、入居者の意思を優先し、自己決定を行える環境をつくっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者全ての希望を、実行する事は困難であるが、その日の体調等などで時間を決めずに一人一人のペースに合わせるようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る範囲での身だしなみ、おしゃれが出来るように声掛け、環境作り等支援行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前下ごしらえ等それぞれの能力に応じた作業を共に行い、献立に関しても入居者の意見を重視、苦手のある方には、別メニューにての提供行っている。	入所時のアセスメントや日々の会話の中で利用者の嗜好やアレルギーの有無の聞き取りを行っている。また、利用者には食後に感想を聞き取っている。季節を感じる食材を使用し、食事の準備や片付けの際には利用者の残存能力や状態に合わせて手伝ってもらっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状況等に応じて食事量や栄養バランスを考え対応している。又水分量も摂取しやすいよう種類形態を取り揃え好みに合わせた対応をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施 週1回の消毒(ポリデント)を行っている。が、毎回のケアに拒否ある場合は、1日1回のみ実施する場合もある。		

グループホームみつばちの家(西館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	歩行可能な方は出来る限りトイレでの排泄を失敗なく出来るよう一人一人の排泄パターンを周知し支援を行っている。	排泄チェック表やバイタル表により回数を記録し、量やパターン、下剤の使用の有無を把握している。日々の生活の中で声かけのタイミングを設け誘導し、自立支援をを促すことで、おむつの使用が必要でなくなった例もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、食物(繊維質)での工夫や日々の運動の実施 長く便秘が続く場合は、主治医に相談行い薬使用する事もある。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日やある程度の時間内(PM2時～5時)での好きな時間に本人への入浴促し拒否ある時は、無理せず翌日への声掛けに変え3日目の場合は、清拭を行って貰えるように促す。	入浴は職員の人数が揃った日時に促される場合が多いが、利用者の要望に応じて柔軟に対応できる。車椅子利用者の場合も十分な広さがあり、シャワー椅子などの福祉用具を利用し支援している。状態が悪い時等には、清拭を行うなど、臨機応変に対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後や昼食後など本人が好きな時や場所で休息出来るよう支援行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人のファイルがあり、薬の状況等個別に管理されスタッフが目を通うせるようになっている。又、状況変化がある場合は、職員間 主治医に連絡 相談するよう支援行う。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみある生活が出来るようカラオケ、パン作りなど興味のある事、今までの生活で培われた事を活かし気分転換への支援行う。が、中には役割に参加されない、出来ない方も状況を見ての支援を行う時もある。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出の方 その日に今の方と居られるが、今の方に対しては本人の歩ける範囲での散歩を拒否せず行っている。又予定を立て普段は行けない所への支援も行っている。	日々の散歩は自由であるが、利用者の安全を考え必ず職員が同行もしくは見守っている。近隣での散歩、買い物支援の他、車椅子の利用者も含めて希望に応じてドライブや花見、遠足などの外出支援を行っている。家族の協力のもとでの外出もある。	

グループホームみつばちの家(西館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望にて職員と一緒に買い物へ行かれたり、職員が代わりに買い物に行ったりして対応している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>フロアーに使用できるよう置いてあり、自由に使われる方もある。又携帯電話持ち家族と密接に連絡されている。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に応じた壁画や、カレンダー制作を入居者と共に行い、季節間を取り入れ、室内温度を一定に保つことを心がけ利用者の希望に応じて対応している。</p>	<p>事業所内は広くゆったりとした空間となっており不快な音はない。場所によっては天窓の光の調整を布で行ったり西日はカーテンで弱めたりなど、適度な明るさ、温度が保てるよう努めている。リビングには装飾・花などから季節を感じる事ができるようになっている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テレビ前には、ソファー置き利用者同士が会話できたり、一緒に過ごせるような空間作りに努めている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各利用者自室には、なじみの物を置かれたり、お孫さんの写真など飾られたりとしている方が殆どであるが散らかっていてもそれが私なりとのような利用者も居られる。</p>	<p>居室には東西1室ずつ畳の部屋が設けられている。居室への使い慣れた家具などの持ち込みは自由となっており、テレビや写真、時計、仏壇などの他、本などの趣味に関する道具の持ち込みもある。居室の清掃は主に職員が行い清潔を保てるよう努めている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレは、わかりやすい様に案内版を表示したり、洗面所に椅子を配置し安全に行動出来るように工夫に努めている。</p>		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290500083		
法人名	合同会社 グローリー		
事業所名	グループホームみつばちの家 東館		
所在地	長崎県大村市竹松本町685番地8		
自己評価作成日	平成22年8月25日	評価結果市町村受理日	平成22年12月8日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成22年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、交通の便の良い静かな住宅街の中で、大変恵まれた環境の中に立地しております。ホーム敷地入口には掲示板を設置し、党ホームの取り組みを地域の方々へと発信しています。また、スタッフ間で生活管理委員会・地域活動委員会を立ち上げ、地域活動としては入居者が作った手作りの物、保育園の卒園性への花籠の作成、畑でできた野菜をほんの少しながら地域へ配ったり、庭作りにベンチを設置していますので、将来的には近所の方々をお招きできたらと思っています。生活管理としては、入居者の心身の健康、QOLの追及を目指しています。また、音楽を楽しむ場も多くあり、ホーム長のギター弾き語りを先頭に、音楽を通して入居者の生きてきた生活を振り返り、それぞれの想いに共感しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	なじみの中で ゆったり生きる ぼちぼち生きる ありのまま生きる という理念を共有し、管理者 職員ともに心がけながら、実践につなげている状況		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が作った花籠を保育園へ配ったり、雑巾などを地域の方々や病院などに使っていただけるよう、利用者とともに訪問し配ったりしているが、日常的な交流とまではいかない。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設入口に掲示板を設置し、施設の広報紙やボランティア募集を貼りだしたり、福祉の新しい情報などを地域の方が自由に見れるよう掲示している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議で出た意見などを、職員会議などに持ち込み、職員皆で話し合い活かすように努めている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険上の手続きや届出以外にも、相談・連絡等において、市の担当者と協力的な関係を築いている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上夜間以外には施錠行わず、自由に入出りでき、玄関・中門にセンサー設置し、モニターで確認おこなう。出て行かれる方がいる場合は、後方より見守りし、状況みて声かけなどで対応し、身体拘束をしないよう努める。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や職員間での情報共有し、勉強会などにて意見確認し、互いに防止に努めている。		

グループホームみつばちの家(東館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などを受けたりははあるが、全体ではまだ把握できている状況ではなく、活用できていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間かけ説明を行い、目をゆっくり通していただき、不安や疑問点は話しやすい状況を作り説明し納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進協議会において、入居者やその家族の方々にも参加していただき、意見・要望を尋ねているが、特に意見がないことが多いため、普段の生活の中や面会時に何気なく発せられる言葉に耳を傾けている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ主導にて毎月1回、職員回・ユニット会を行い、ディスカッションの場を設けている。又、発言の少ないスタッフにおいても、日常的な業務の中で意見を聞いている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれの、日常的な就労状況や考えを把握し、その職員がやる気を持って仕事に取り組めるように、給与水準のアップを含めた、役割や係を担っていただいている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度より外部・内部研修推進のための担当者を決め、職員1人1人に応じた研修を受けられるように計画を立て実行している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内GH協議会で行われる、相互評価・職員交換研修・親睦会などに参加。また、独自の地域社会資源との交流を図り、ネットワークを築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の中で入居者が話しやすい環境づくりに努め、本人の思いを傾聴するよう努めている。また、職員のほうからも話しかけ、利用者との良好な関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族面会時には声かけし、話しやすい関係を築きつつ、家族の思い・訴えなどを受け入れ、スタッフ間でも情報共有し、お互いが信頼関係を築けるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日々の生活状況みながら、変化みられた際は、本人・家族・スタッフ間で話し合い、その時々にながら何が必要か見極めながら迅速に対応できるように努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や日々の活動において共同作業にて行い、コミュニケーションをとりつつよりよい関係を築けるよう努めているが、時折、言葉や態度で礼を失することがある。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には入居者の近況を報告し、お互いに情報を共有し、家族の思いもくみあげつつ共に支えあえるような関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	すべての方でできているとは言えないが、なるべく本人の希望に添えるよう支援に努める。遠方より入居された方に対してはむずかしいが、本人から語られるなじみの雰囲気などをもとに対応考えたりし、支援に努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	色々な作業・レクリエーションの中で、それぞれが楽しめるよう、入居者の関係性も考え雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も状況把握を行い、連絡あった際には相談や支援できるよう努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時・更新時は本人へ意思の確認を取るなどして、本人の思いなど把握できるようつとめている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報や本人との日常の会話から語られる内容で知ったり、家族へ尋ねたりし把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	しっかりした内容の記録を書くこと、小さな変化も申し送ることで、スタッフ全員が現状把握できるように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとに見直し、ユニット会でカンファレンスを行い、スタッフそれぞれの意見を反映している。又、暫定プランを家族に確認していただき、家族の思いも反映したプラン作りを行っている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録にはケアプランに表記された番号を記入するようになっており、ケアプランに基づいた記録となっているため、スタッフ全員が共通の認識のもとでケアプランに反映できている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や個別の買い物・外出・外泊・介護タクシーの利用や、家族の方との食事・泊まり込み、など、その時に応じた個々のニーズに柔軟な対応ができるよう努めている。		

グループホームみつばちの家(東館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	不定期に入居者のお話相手になって下さるボランティアの方が来られたり、面会に来られたご家族が、他入居者のお話相手になって下さることもある。また、地域のお店を利用したりお祭りに参加したりと豊かな生活を送れるよう支援に努める		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望ある際は、なじみの医療機関の利用を優先している。特に希望ない場合は、ホームと連携している往診可能な医療機関にて対応、緊急時の対応や家族の希望なども把握行い支援に努めている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと提携しており、週1回訪問時に入居者の状態など情報交換を行っており、適切な対応を受けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換おこない、常に状況把握に努め、支援できるよう努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時・体調変化時に、ご家族と終末期についての希望や対応相談し、家族の気持ちなども聞き取り話し合い、共に思いを共有し支援に努めている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場の内部研修や、看護師による勉強会などで学んではいるが、訓練実施はできておらず、実践力においては確実性に欠けるところがある。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練は行っているが、全職員が高い水準で避難方法を身につけているとは言えない。また、地域との協力体制も築けておらず依然として不十分である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人を尊重し対応しているが、時折言葉遣いや声かけに不十分なこともあり、態度にでることもある。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思や希望を聞き取れるよう努めているが、認知症の度合いにより難しいところもあり、うまく言葉が出ないときもある、その際はスタッフから声かけし、自己決定できるよう働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースに合わせ、本人の希望に沿った生活を支援していけるよう努めているが、本人の意欲低下によりその人らしい生活というものを見いだせずにいる。また、突発的な外出要求においては希望に添えていない場面もある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの理美容院を利用することで対応できている。また、本人と共に買い物に行き本人が選び購入することで、その人らしさが出せるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各人に尋ね、献立に嗜好を反映できるよう努めている。また、準備や片付けも職員利用者共に行いそれぞれの力を活かせるよう支援している。しかし、できる方・できない方、やりたい方・やりたくない方で偏りみられる。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェック表にて個々の摂取状態を把握し、確保できるよう働きかけている。摂取状況が悪い時には、個人の嗜好に合わせたり、栄養価を考えた食品などで摂取をできるよう支援する。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後や起床後入眠前に声かけや誘導・セッティングし口腔ケア行っているが、すべての入居者の口腔状態を把握できているわけではない。また、1名は口腔ケアされておられず。		

グループホームみつばちの家(東館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、個々人の排泄パターンの把握に努め、個々人のADLに合わせた下剤・オムツ・パットの使用を行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便状態を把握し、ヨーグルトや、牛乳・青汁牛乳・ココアなどを摂取していただき、適度な運動を促すなどし便秘の予防に取り組んでいる。しかし、それでも排便見られない場合は、下剤等にて調整する。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則として入浴日・時間は決めておらず、入浴剤を利用したりと、本人の入りたいときに入れるよう支援している。ただし、18時以降は対応できないこともある。また、なかなか入られない方へは、週2回ほどは入っていたくよう声かけ行う。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人のその日の体調や状況に合わせて、日中に臥床を促したり、夜間は巡回を行うなどして安心して休んでもらえるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬はホーム管理にて、服薬時はちゃんと飲んでしまうまで確認し、薬変更時は記録などに残し全員が把握できるよう努めている。また、お薬手帳作っており、薬の効果・副作用を確認できるようしている。薬内容を全員が把握できるとは言えない。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴や趣味・興味をもたれたことなどを活用し、気分転換や生活のメリハリが持てるよう支援している。(家事手伝い・畑作業・歌・習字・貼り絵・ドライブ・散歩・外気浴・飲酒など)		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿うよう努力はしているが、希望時に対応できていないこともある。家族の了承を得てにてGPSを持って外出されたり、介護タクシーを利用し外出されたりしている方もいる。地域の人々との協力を得るまでは至っていない。		

グループホームみつばちの家(東館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理されている方もいるが、金銭の自己管理が難しい方においては、家族とも相談しホームにて管理させていただいている。買い物や外出の際には使える範囲で自由に使えるじょうたいである。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があった場合は支援行っているが、スタッフ側から働きかけることはない。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保つよう掃除等行い心がけている。また、温湿度計にて快適な空間が保たれるよう調整に努めている。各入口には目印おき、他には、季節の壁飾りや花を飾ったり空間づくりを行い、ソファやマッサージ機にてくつろぐこともできる。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人になれる空間はあまりないが、食堂のテーブル配置は入居者の人間関係を考慮し配置している。居間にはソファ・マッサージ機などあり、思い思いに過ごせるような居場所づくりの工夫はしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物・写真・家具等、本人が大切にされていた物など、自由に持ち込んでいただき、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・浴室等わかりやすいように設置された張り紙や、自立歩行のための手すりの設置。また、家事手伝いの当番表で自分から流しの前に立たれたり、自主性を促した生活ができるよう工夫している。		